

放射性廃棄物処理・処分 スケジュール

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	12月				1月				2月				3月		4月		備考		
				17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8						
放射性廃棄物の保管管理計画 処分・処分計画	1. 発生量低減対策の推進	持込抑制策の検討	(実績) ・足場材貸出による再使用	検討・設計																	足場材貸出による再使用	・2017年3月27日：足場材貸出運用開始
			(予定) ・足場材貸出による再使用		現場作業																	
	固体廃棄物貯蔵庫の設置		(実績) ・固体廃棄物貯蔵庫第9棟にかかる建屋工事 内外装工事	検討・設計																	内外装工事	・2015年7月17日：実施計画変更認可申請認可
			(予定) ・固体廃棄物貯蔵庫第9棟にかかる建屋工事 内外装工事 管理区域設定 舗装工事		現場作業																	
	覆土式一時保管施設3,4槽の設置		(実績) ・設置工事(3槽) ・設置工事(4槽)	検討・設計																	運用開始	・2014年8月12日：安全協定に基づく事前了解 ・2015年11月13日：使用前検査(3槽)
			(予定) ・設置工事(3槽) ・設置工事(4槽) カレキ減容		現場作業																	
	2. 保管適正化の推進		一時保管エリアの追設/拡張	(実績)	検討・設計																	一時保管エリアの追設/拡張
(予定)				現場作業																		
雑固体廃棄物焼却設備			(実績) ・処理運転 (A・B系)	検討・設計																	最新工程反映	・2018年1月12日よりA系、B系共に停止。 ・2018年1月23日よりB系、運転再開。 ・2018年1月25日よりA系、運転再開。 ・2018年2月1日 0時より、B系運転停止し、定期点検実施予定。 ・2018年2月3日 0時より、A系運転停止し、定期点検実施予定。
			(予定) ・処理運転 (A・B系)		現場作業																	
増設雑固体廃棄物焼却設備			(実績) ・基礎工事	検討・設計																	基礎工事	・2020年度下期：竣工予定 ・2017年4月11日：実施計画変更認可申請 ・2017年8月22日：実施計画変更認可申請(一部補正) ・2017年11月9日：実施計画変更認可申請(一部補正)
			(予定) ・基礎工事 ・鉄骨工事		現場作業																	
除染装置(AREVA)スラッジ			(実績) ・スラッジ対処方法及び除染方法検討 ・造粒固化体貯槽(D)除塩	検討・設計																	スラッジ対処方法及び除染方法検討	・2018年3月中旬：終了予定(造粒固化体貯槽(D)除塩)
			(予定) ・スラッジ対処方法及び除染方法検討 ・造粒固化体貯槽(D)除塩		現場作業																	

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	12月			1月				2月			3月	4月	備考		
				17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	上		中	下
保管管理計画	3. 瓦礫等の管理・発電所全体から新たに放出される放射性物質等による敷地境界線量低減	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一時保管エリアの保管量確認/線量率測定および集計</li> <li>ガレキ等の将来的な保管方法の検討</li> <li>線量低減対策検討</li> <li>ガレキ・伐採木の保管管理に関する諸対策の継続</li> </ul> <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一時保管エリアの保管量確認/線量率測定および集計</li> <li>ガレキ等の将来的な保管方法の検討</li> <li>線量低減対策検討</li> <li>ガレキ・伐採木の保管管理に関する諸対策の継続</li> </ul>	検討・設計				一時保管エリアの保管量、線量率集計											
			現場作業															
			検討・設計															
固体廃棄物の保管管理・処分計画	4. 固体廃棄物の性状把握	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・分析</li> <li>【研究開発】JAEAにて試料の分析(現場: JAEA東海等)</li> <li>分析試料のJAEA東海・民間分析施設への輸送</li> </ul> <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・分析</li> <li>【研究開発】JAEAにて試料の分析(現場: JAEA東海等)</li> </ul>	検討・設計															
			現場作業															
			検討・設計															
固体廃棄物の保管管理・処分計画	5. JAEA分析・研究施設の整備(施設管理棟、第1棟、第2棟)	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設管理棟建設工事</li> <li>第1棟建屋現地工事</li> <li>基礎工事</li> </ul> <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設管理棟建設工事</li> <li>第1棟建屋現地工事</li> <li>基礎工事</li> </ul>	検討・設計															
			現場作業															
			検討・設計															

・多核種除去設備の運転状況に応じて順次試料を採取

・これまでの分析結果は以下のウェブページにまとめられている  
<http://fukushima.jaea.go.jp/initiatives/cat05/tech-info.html>

・2017年3月7日: JAEA分析研究施設第1棟実施計画変更認可(原規規発第1703071号)

・2018年2月:竣工予定(施設管理棟)

・杭工事完了(2017年8月7日)

### 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2017.12.28 時点)

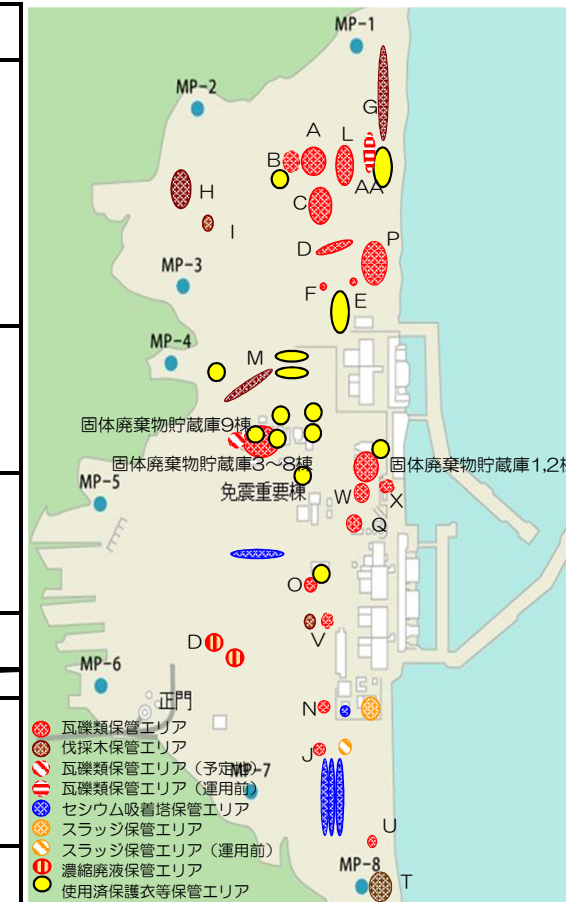
分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比*1 (2017.12.21)	変動理由*2	エリア 占有率	保管量**3 / 保管容量 (割合)	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01未満	2,800 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	85 %	164000 / 214300 (77%)	・フランジタンク解体片 エリアP1にて一時保管中。(2015年6月15日～) 2017年12月末時点で532基(コンテナ)保管。
		C	屋外集積	0.01未満	58,600 m <sup>3</sup>	+1,300 m <sup>3</sup>	①②	93 %		
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	85 %		
		J	屋外集積	0.02	4,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	53 %		
		N	屋外集積	0.01未満	4,500 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	45 %		
		O	屋外集積	0.01未満	38,700 m <sup>3</sup>	+1,200 m <sup>3</sup>	①②③	75 %		
		P1	屋外集積	0.01	47,300 m <sup>3</sup>	微増	—	74 %		
	U	屋外集積	0.01未満	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	0 %			
	V	屋外集積	0.01	1,500 m <sup>3</sup>	-700 m <sup>3</sup>	④	26 %			
	シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	58 %	29300 / 71000 (41%)	・エリアWでの車両解体(プレス等)がほぼ完了し受入開始。
E1		シート養生	0.02	13,500 m <sup>3</sup>	+400 m <sup>3</sup>	⑤	84 %			
P2		シート養生	0.01	5,500 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	61 %			
W		シート養生	0.05	2,100 m <sup>3</sup>	+300 m <sup>3</sup>	①	7 %			
覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100 %	21600 / 27700 (78%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。	
	A	仮設保管設備	0.25	5,500 m <sup>3</sup>	+900 m <sup>3</sup>	⑥	78 %			
	E2	容器**4	0.02	300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	19 %			
	F1	容器	0.01未満	600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	99 %			
Q	容器	0.07	3,100 m <sup>3</sup>	-900 m <sup>3</sup>	⑦	50 %				
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器**4	0.02	9,300 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	②	78 %	9300 / 12000 (78%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。	
合計(ガレキ)				224,200 m <sup>3</sup>	+3,600 m <sup>3</sup>	—	69 %			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,100 m <sup>3</sup>	微増	—	63 %	96400 / 144500 (67%)	
		I	屋外集積	-	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	0 %		
		H	屋外集積	0.01未満	31,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	74 %		
		M	屋外集積	0.01未満	39,500 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	88 %		
		V	屋外集積	0.01	100 m <sup>3</sup>	微増	—	1 %		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	88 %	37300 / 41600 (90%)	
T		伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	94 %			
合計(伐採木)				133,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	72 %			
保護衣	屋外集積	容器	0.04	59,900 m <sup>3</sup>	-2,300 m <sup>3</sup>	⑧	84 %	59900 / 71200 (84%)	・使用済保護衣等焼却量 3257t (2017年12月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 712本 (2017年12月末累積)	
合計(使用済保護衣等)				59,900 m <sup>3</sup>	-2,300 m <sup>3</sup>	—	84 %			
仮設	瓦礫類	U(仮設分)	屋外集積	0.01未満	700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—		・タンク設置スペース確保に伴い、エリアUより持込み。	
合計(仮設運用エリア)				700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—				

※1 100m<sup>3</sup>未満を端数処理しており、微増・微減とは100m<sup>3</sup>未満の増減を示す。  
 ※2 主な変動理由：①タンク設置工事 ②1～4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ③一時保管エリアVから瓦礫の受入 ④瓦礫を一時保管エリアOに移動 ⑤フェーシング工事  
 ⑥一時保管エリアQから瓦礫の受入 ⑦瓦礫を一時保管エリアAに移動 ⑧焼却運転

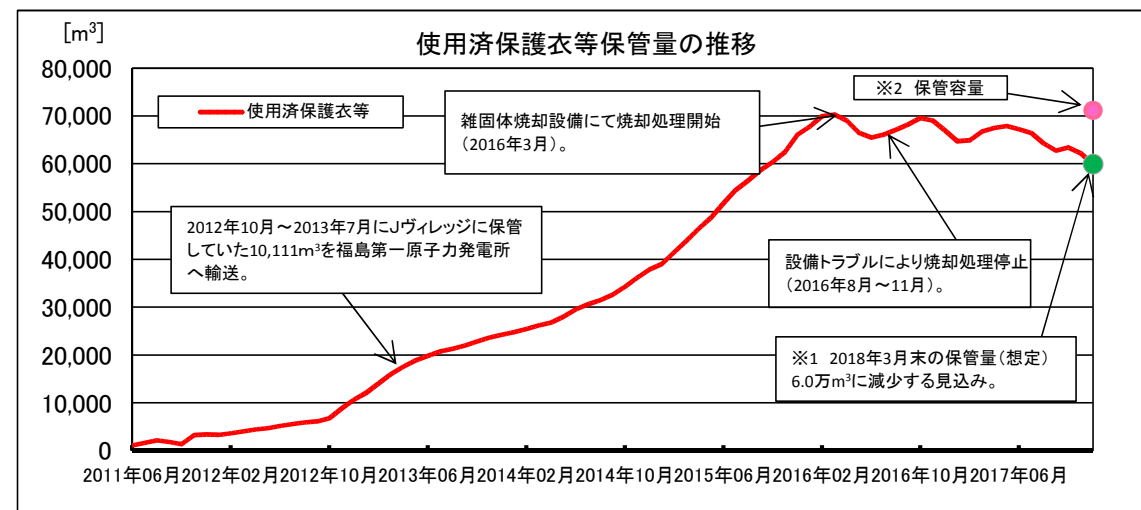
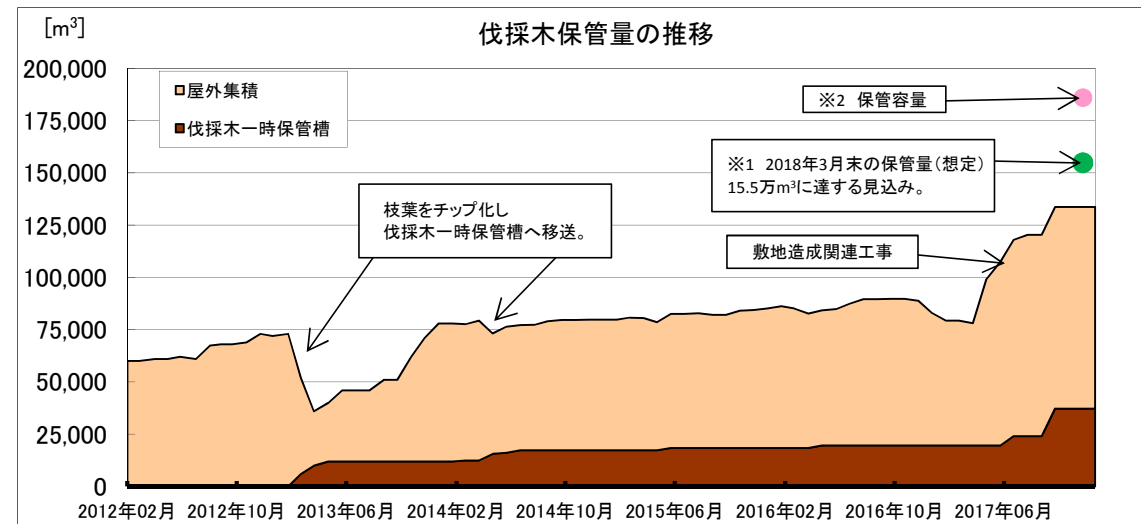
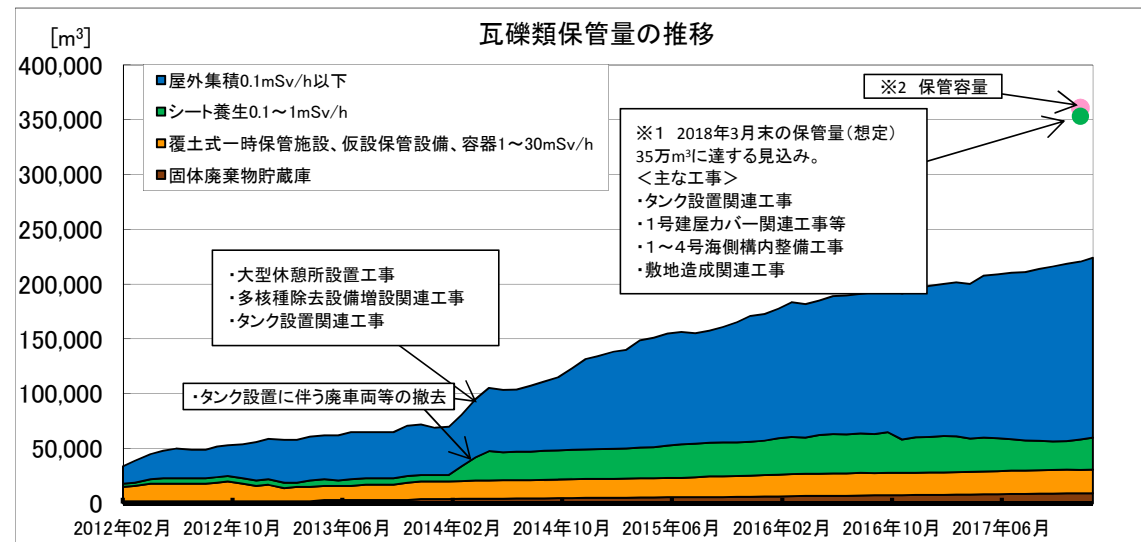
※3 端数処理で100m<sup>3</sup>未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。  
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

### 水処理二次廃棄物の管理状況(2018.1.4時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2017.12.21)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	763 本	+4 本	3865 / 6368 (61%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) ・使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	192 本	0 本		
		多核種除去設備等保管容器	1,446 基	0 基		
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	73 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	11 塔	+2 塔		
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	196 本	+1 本		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,319 m <sup>3</sup>	-22 m <sup>3</sup>	9319 / 10700 (87%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・水位計0%以上の保管量: 9219 [m] タンク底部～水位計の保管量(DS): 約100[m]	

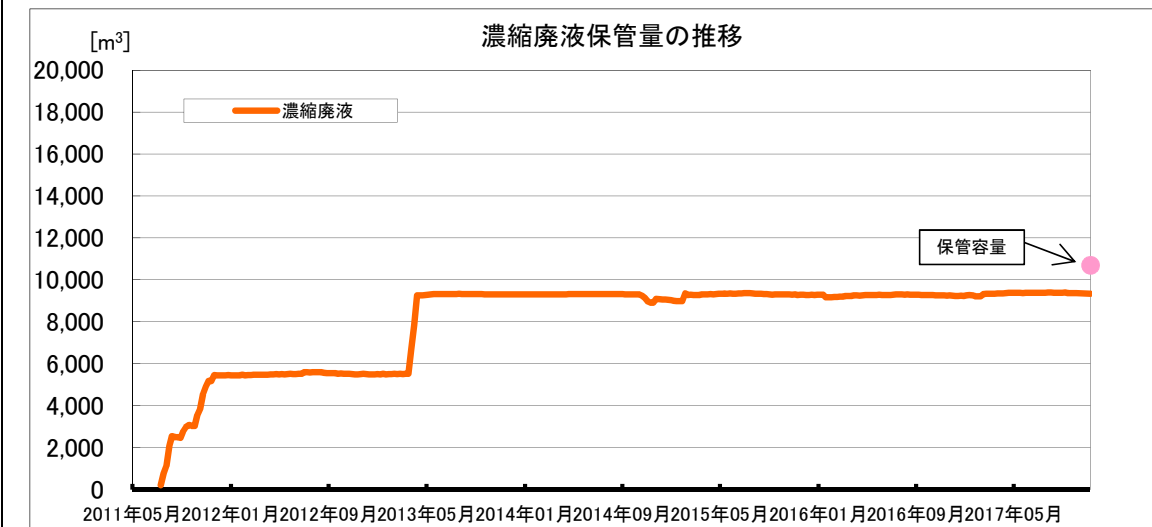
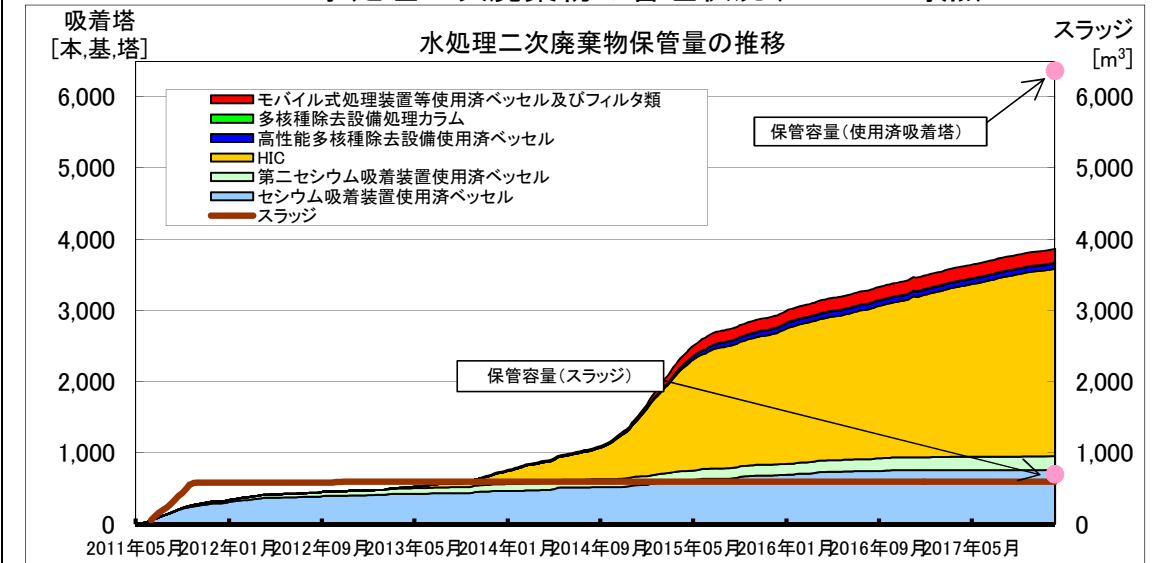


## 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2017.12.28 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2017年3月1日認可)の予測値を示す。  
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、実施計画(2017年3月1日認可)の保管容量の運用上の上限を示す。

## 水処理二次廃棄物の管理状況(2018.1.4時点)



# 固体廃棄物貯蔵庫第9棟について

2018年2月1日

**TEPCO**

---

東京電力ホールディングス株式会社

## ●設置の目的

固体廃棄物貯蔵庫第9棟は、敷地内に設置されている第1棟～第8棟と同様に、廃炉作業で発生した瓦礫等、及び事故前から保管されていた放射性固体廃棄物を保管する目的で設置。

## ●放射線の外部への影響について

固体廃棄物貯蔵庫第9棟は、十分な遮へい、空調の排気には念のためにフィルターを設け、放射性物質濃度を定期的に測定することにより、敷地境界線量が1mSv/年に比べて十分小さくなるよう対策を講じています。

## ●作業員の安全確保について

次の保管管理を行い、作業員の安全確保に万全を期します。

- ・関係者以外がむやみに立ち入らないよう、作業時以外は出入口を閉め、施錠管理する。
- ・空間線量率を定期的に測定し、測定結果は作業員への注意喚起のため保管エリアに表示する。
- ・定期的に巡視するとともに、保管物を保管する際には、保管物の表面線量率を確認して表面線量率に応じた保管階を選定する（地上2階：0.05mSv/h以下、地上1階：1mSv/h以下、地下1階：30mSv/h以下、地下2階：30mSv/h超の廃棄物を保管）。
- ・ドラム缶については、大地震における転倒リスクを低減するため、既設の第7,8棟と同様、レーンの左・右・奥は壁にて保持し、入口側はドラム缶及びパレットを固縛する。

# 1. 施設概要

固体廃棄物貯蔵庫第9棟は、2018年1月31日に竣工し2018年2月1日から運用を開始した。また、第9棟の増設により、1号機オペフロの瓦礫撤去や、2号機の原子炉建屋上部解体に伴い発生する高線量の瓦礫等の保管容量を確保できる。

## ■ 工程建屋構造・規模

耐震 クラス	構造	階数		軒高 (m)	建築面積 (m <sup>2</sup> )	延床面積 (m <sup>2</sup> )
		地下	地上			
C	RC	2	2	16.1	6876	26980

## ■ 工程

工期（準備工事）：2014/7/16～2016/8/31  
工期（本体工事）：2015/9/1～2018/1/31  
運用開始：2018/2/1



## ■ 保管容量

約61,200m<sup>3</sup>

200ℓドラム缶 約110,000本相当

※1～8棟の保管容量：200ℓドラム缶

約284,500本相当

## ■ 保管方法



ドラム缶

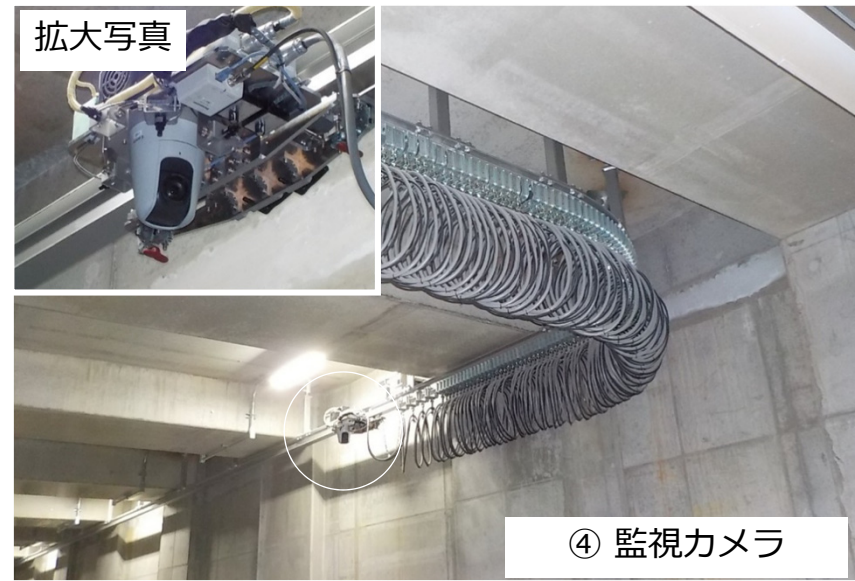


角型容器



表面線量率に応じた保管階（例：>30mSv/hの場合地下2階）に保管する（当面瓦礫類を保管する計画）

## 2. 貯蔵庫棟写真





【現場～固体庫入口運搬重機】  
遮蔽対策フォークリフト



地上部にて積替



地下貯蔵庫入口斜路



地下貯蔵庫通路

- 無人遠隔フォークリフト  
(免震重要棟から遠隔操作)



免震重要棟